

近畿地方唯一のアユモドキ生息地(京都府亀岡市)における 大規模専用球技場の建設計画

日本魚類学会自然保護委員会

日本の淡水魚の中で最も絶滅の危険性の高い種の一つであるアユモドキの主要な生息地において、現在、京都府と亀岡市は、大規模スポーツ施設(サッカースタジアム)の建設に向けて、足早に計画を進めている。日本魚類学会をはじめ、複数の自然保護団体や専門家が、この拙速で根拠に乏しい計画に懸念を表明し、府・市に再考を求めている。本発表は、この計画の経緯や現状、問題点を整理し、国民のかけがえのない財産であるアユモドキとそれを育む水田・湿地生態系の保全のために、広く議論を提起するものである。

アユモドキについて 本種は、琵琶湖・淀川水系と山陽地方の一部に分布する日本固有の淡水魚であり、現在、桂川水系(京都府)と吉井川・旭川水系(岡山)の2地域の極めて限られた場所のみ生き残っている。本種は国の天然記念物に指定され、環境省レッドリストでは絶滅危惧 IA 類に位置づけられるとともに、「種の保存法」の国内希少野生動植物種に指定され(淡水魚類4種のうちの1種)、保全上の最優先種の一つである。

今回の約 13 ha に及ぶ大規模スポーツ施設の建設予定地は、まさに近畿地方で唯一残るアユモドキの生息・繁殖地であり、多様な生物を育むラムサール条約選定候補地である。

亀岡市への建設決定の経緯 京都府が 2011 年に募集した建設候補地のうち、亀岡市を含む 3 つの自治体が検討された。「専用球技場用地調査委員会」では決定困難と報告されたが、京都府知事の判断により、2012 年 12 月に亀岡市に決定された。

保全への対応 亀岡市は誘致の過程で、アユモドキ等の保全に関しては、スタジアムの外縁部に 3.6 ha の「共生ゾーン」を整備することで対応が可能であったとされた。アユモドキ保全の条例を制定する京都府も、それを市の責任として、論点とはしなかった。しかし、亀岡市は、市が擁するアユモドキ保全のための専門家委員会や関連省庁(環境省、文化庁等)と事前に協議すら行っておらず、「共生ゾーン」の内容についても、具体的な検討を一切行わないまま、誘致に至っている。

2013 年 5 月、京都府と亀岡市が合同で環境保全専門家会議を発足させ、アユモドキや他の希少動植物の保全のための調査・検討を開始した。しかし予定調査期間はわずか 1 年であり、2014 年には共生ゾーンの整備工事、2015 年には本体工事に着手するという、他に例を見ない拙速さである。決定後半年余りで、すでに多額の調査費用が費やされ、既成事実が積み上げられつつある。

保全をめぐる社会的動き 環境省近畿地方環境事務所は、誘致決定後、速やかに府・市に要請書を提出し(2 月)、アユモドキの存続のための保全措置が講じられない限り、生息地の改変を回避すべきとした。3 月に日本魚類学会、関西自然保護機構、および日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会は、府・市に対して、アユモドキ等の保全に関する要請書を提出した。5 月には日本魚類学会が再び、府・市からの回答を踏まえ、計画によるアユモドキへの重大な悪影響を懸念し、科学的調査と合理的判断に基づく、計画の再考を求める意見書を提出した。また亀岡市の市民団体により、スタジアム建設に関わる情報公開と市民的議論を行うための住民投票実施に向けた活動が進められている。

問題点 まさに近畿地方最後の生息地ともいえる地点において、あえて大規模開発を推し進める京都府と亀岡市の判断は、希少生物・自然環境保全の観点において、合理性に欠き、その決定過程は不透明である。人為的な生息・繁殖地の造成については、岡山で先駆的な取り組みがなされている。しかし、中・長期にわたる試行錯誤が必要とされ、またその効果は限定的で、個体群の安定的な維持には達していない。今回の拙速な計画では、一般に希少生物の生息地再生に必要とされる順応的対策がなされ得ず、存続可能性の科学的な根拠を誰も持ち得ないまま、生息地の大改変が進められることになる。近年の環境・生物多様性保全の流れに逆行する、稀有な悪事例である。

さらに、河川改修計画が進行中であるとはいえ、計画地は従来遊水地としての機能を果たしてきた地域であり、大規模な盛土や建造物の治水上の影響は十分に検討されていない。施設の基本的な経営・経済的検討ですら、これからの課題である。

アユモドキや他の動植物、そしてそれらを育む水田・湿地生態系の保全を確かなものとし、次世代に引き継ぐため、府・市が開催する環境保全専門家会議での議論にとどめることなく、この淡水魚保全の試金石ともいえる問題を広く共有し、合理的かつ公平な意思決定を実現していかなければならない。

日本魚類学会からの意見書:<http://www.fish-isj.jp/iin/nature/teian/index.html>